学校番号	１０１２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
講座名	数学Ⅰ						
使用教科書	最新 数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	書き込み式シリーズ　パラレルノート 数学Ⅰ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業には教科書・副教材・ノートを持ってきてください。中学校までに習った内容はよく復習しておく必要があります。
・「予習をすることで問題点を見つける→授業内で問題点を共有する→周囲と議論し、解法を導く→問題点の解決法を発表する」といった一連の過程で授業を行います。
・定期的に家庭学習用課題を課します。最後まで諦めずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

・数と式、二次関数、図形と計量、データの分析の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能を身につける。中学校までの既習事項と関連させながら、問題演習を通して基礎的な知識を習得し技術を習熟する。
・日常生活における身近な事象を取り上げ、数学とのかかわりを認識し考察する。また、数と式、二次関数、図形と計量、データの分析に関して、社会において活用できる思考力を身につける。
・グループワーク等を通して、さまざまな解法があることや定理の意味について気付き、数学に対する興味や関心を高める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）及び評定（１～５の５段階）にまとめます。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知（a）	思(b)	主(c)
1学期	数と式	式の計算 実数	a:数を実数まで拡張する意義を理解し、四則計算に加え、展開、簡単な因数分解ができる。 b:一つの文字に着目したり、置き換えたりするなどして、色々な式の見方をすることや、目的に応じて的確に式を変形する方法を考察するとともにどのような見分けをするのか説明できる。 c:実数や計算に関心を持つとともに数学の良さを認識し、それらを計算などの問題解決に活用しようとする。	1学期考査 小テスト	パフォーマンス課題 レポート課題 小テスト	パフォーマンス課題 授業への取り組み
		1次不等式	a:二次の乗法公式及び因数分解の公式、不等式の解の意味や性質について基本的な知識を身に付けており、展開や因数分解することや一次不等式の解を求めることができる。 b:式を見て適切に変形して問題を考察することができる。また日常や社会の事象など数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。 c:数学の良さを認識し、一次不等式を問題解決に活用しようとする。			
2学期	集合と命題	集合と命題	a:与えられた2つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆、裏、対偶について真偽を証明したりすることができる。また集合や命題に関する基本的な用語、記号を理解している。 b:ベン図など用いて集合を整理し、多面的、結合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。 c:集合や命題の良さを認識し、集合と命題の問題解決に活用しようとする。	中間考査 期末考査 小テスト	パフォーマンス課題 レポート課題 小テスト	パフォーマンス課題 授業への取り組み
	2次関数	2次関数とグラフ	a:平方完成などを利用し2次関数から頂点を求める事ができ、グラフの概要を書くことができる。 b:2次関数$y = ax^2 + bx + c$のグラフと$y = ax^2$のグラフの位置関係を考察することができ、どのように平行移動したか判断できる。			

2学期			c:二次関数とそのグラフについて関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとする。	中間考査 期末考査 小テスト	パフォーマンス課題 レポート課題 小テスト	パフォーマンス課題 授業への取り組み
		2 次関数の最大値、最小値	a:二次関数のグラフや式を用いて、二次関数の最大値、最小値の求め方について理解し解を出せる b:二次関数の範囲において最大値、最小値がどのように変化するか考察し、どの点においてそれが求めることかできるかを判断することができる。 c:二次関数の最大値、最小値に関心を持ちそれらを最大値、最小値の考察に活用しようとする。			
		2 次方程式	a:因数分解や解の公式等を利用して解を求めることができる。 b:二関数とｘ軸の位置関係と二次方程式の解との関係を考察し、その解をグラフ上に表すことができる。 c:二次方程式に関心を持ちそれらを二次方程式の解の考察に活用しようとする。			
		2 次不等式	a：二次関数のグラフとｘ軸の位置関係を基に、二次不等式の解を求めることができる。 b:二次不等式の解を二次関数のグラフを用いて考察することができる。 c:二次不等式に関心をもちそれらを二次方程式の解の考察に活用しようとする。			
3学期	図形と計量	鋭角な三角比	a：正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。 b：直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。 c：鋭角の三角比に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとする。	期末考査 小テスト	パフォーマンス課題 レポート課題 小テスト	パフォーマンス課題 授業への取り組み

3学期		三角比の相互関係	a：三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。 b：三角比の相互関係について考察することができる。 c：三角比の相互関係に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとする。	期末考査 小テスト	パフォーマンス課題 レポート課題 小テスト	パフォーマンス課題 授業への取り組み
		三角比の拡張	a：90°までの三角比の表を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。 b：鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c：鋭角の三角比を鈍角まで拡張する考えに関心をもち、それらを図形の性質の考察に活用しようとする。			
		三角形への応用	a：三角形の決定条件が与えられたとき、三角形の残りの要素を求めることができる。 b：正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。 c：正弦定理・余弦定理が有用であること認識し、それらを図形の計量に活用しようとする。			
	データの分析	データの分析	a：散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。 b：散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c：散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとする。	期末考査 小テスト	パフォーマンス課題 レポート課題 小テスト	パフォーマンス課題 授業への取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。